



チャマダラセセリ (*Pyrgus maculatus maculatus*)

長野県版レッドリスト 2015：絶滅危惧 I A 類

環境省版レッドリスト 2015：絶滅危惧 I B 類

<チャマダラセセリとは>

チャマダラセセリは、^{りんしもく}鱗翅目セセリチョウ科に属する草原性のチョウで、現在日本で絶滅が危惧されているチョウの一種です。成虫の^{はうら}翅裏は、赤みを帯びた黒褐色で小さな白斑があるのが特徴で、火入れや採草などの人の手が加えられて管理されてきた、地表が現れるような植生密度の低い草地（半自然草原）を好んで生息します。食草は主にバラ科草本のキジムシロ及びミツバツチグリであり、葉裏に産卵します。木曾町の開田高原内では 4～8 月にかけて年 2 回観察されていましたが、最近では^{まむ}稀にしか見られないものとなっています。



ミツバツチグリ

<現在の状況>

もともと全国各地（栃木県、静岡県、四国地方、神奈川県など）に広く分布していましたが、近年は多くの地域で絶滅または個体数が減少し、現在、長野県内では木曾町の開田高原のみ確認されています。長野県版レッドリスト 2015 でも絶滅危惧 I A 類へランクアップするなど、近い将来、絶滅の危険性が極めて高い種として位置付けられています。そのため長野県では、長野県希少野生動物保護条例で守るべき種として指定しており、許可なく捕獲・採集することを禁止しています。

<チャマダラセセリが生息する開田高原について>



木曾町開田高原

開田高原は、木曾町内の北西部に位置し、ほぼ全域が標高1,000m以上の高地にあります。気候は真夏でも30℃を超えることはほとんどなく、一年を通して非常に冷涼となっており、白菜やトウモロコシ、ソバなど気候を生かした農産物の生産が盛んに行われています。また、日本在来種の「木曾馬」の主な飼育地となっており、現在は保護・育成に努めています。

しかし、近年、人口減や農業の衰退によりチャマダラセセリの生息地とされている半自然草原が減ってしまいました。さらには生息地の踏み荒らしなど、生息環境の悪化も影響を与えていると考えられており、昔は至るところで見られたチョウの姿が今ではほとんど見られない危機的な状況となっています。

<木曾町環境協議会の活動>

協議会では、現在も家畜用の採草地として活用されている草原（チャマダラセセリ生息地）の草刈りや火入れといった地元作業の応援を通じて生息環境の保全に取り組んでいます。また、地域への周知や啓発活動の一環でポストカードの作成なども行いました。



火入れ



草刈り

さらに木曾町では、チャマダラセセリをはじめとした希少な動植物や生物多様性の保全に向け、平成28年3月8日（火）に帝京科学大学・信州生物多様性ネットワーク・きずな・長野県・木曾町の四者による「生物多様性保全の推進に関する基本協定」を締結しました。

協定では地域や保全団体、企業など様々な皆さんが連携し、社会全体で生物多様性の保全に取り組むこととしています。これを機に地域内外の多くの皆さんとの連携を深めながら一層活発に保全活動を展開する予定ですので、皆さんもこのチョウの保全活動に参加してみませんか？

協議会では保全活動に参加を希望される個人、企業などの皆様を募集しています。

ご関心がある方は「木曾町環境協議会 事務局」までご連絡ください。

○木曾町環境協議会 事務局

住所：長野県木曾郡木曾町福島 2326-6（木曾町役場町民課環境政策室内）

TEL：0264-22-4281

FAX：0264-24-3601

